

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	学生の問題解決力を育む授業に関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	二羽 泰子
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	二羽 泰子

講演題目
学生の問題解決力を育む授業に関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望 SNS 等における根拠のない情報や発言に翻弄される若者が増える中で、本学の学生が問題を客観的に把握・分析し、主体的に問題解決する力を身につける機会を創出することが本研究の目的であった。そのために、学生が客観的に問題を分析し、実践的に問題解決につなげられる力をつける授業のあり方を探求した。本研究を通じて、机上の空論ではなく、実践社会においても活用可能な力を授業においてどのように育むことができるかを明らかにし、現在の若者が、直面する問題を主体的に解決する力を育む教育についての示唆を提供することを目指した。 その結果、2025 年度時点での 3・4 年生については、グループワークで実践的な分析に実際に取り組むことと、その思考の過程を振り返ることができるような講義を組み合わせることによって、一定の効果が見られた。 一方、1・2 年生については、問題解決力を育む以前の課題が浮き彫りになった。具体的には、全ての発問や課題を AI に丸投げする学生が急増しており、問題に向き合い思考するプロセスが抜け落ちてしまっていた。また、自らがマッチングによって選択した者以外とのコミュニケーションを避ける傾向が顕著になり、グループワークが成り立たなくなっていた。